

研修報告書

平成 29 年 6 月 8 日

宮田村議会議長 清水 正康 様

副議長 城倉 栄治

1. 日 程

平成 29 年 5 月 31 日午後 12 時 30 分 ～ 6 月 1 日正午

2. 参加者

議長：清水 正康 副議長：城倉 栄治

3. 経 費

交通費：7,400 円（高速バス代） 宿泊費：12,000 円 日当：4,400 円（二日分）
1 名分計 23,800 円 2 名合計 47,600 円

4. 研修成果報告

1) 平成 29 年度全国町村議会議長・副議長研修 12:30～17:05

①「大震災における自治体と議会の使命」

地方自治総合研究所 主任研究員 今井 照 氏

(考察・意見)

・災害時における議員の役割

議会、議員が適切に行動するために、事前のルールを取り決める。

災害後は情報収集・共有・発信が重要。被災地、被災者支援が中心である。

災害後の議会は、特別委員会を設置して政策提案をすること。

議長のリーダーシップが重要である。

・災害時に行政の助けなく議会独自に進められる議会運営ができるようになる必要がある。

・議会独自の避難訓練・参集訓練が必要である。

・災害は予想を超えるから災害となる。このことの認識が必要である。

②町村議会特別表彰 「政策形成マネジメントサイクルと議員の成り手不足の

検証 ～身の丈にあった活性化から一步一步前進する議会へ～

北海道浦幌町議会議長 田村 寛邦 氏

(政策形成マネジメント) 宮田村議会と相違点のみ

- ・日曜議会、ナイター議会の開催
- ・町長の反問権付与
- ・議会報告会
- ・一般会議（商工会、農協役員）
- ・議会モニター制度
- ・議会町民意見箱の設置

(議員の成り手不足)

- ・町民アンケート調査 2000人無作為で抽出。回収率30.9%
町民に「開かれた・身近な・町民参加」の議会を目指す。
 - ①対話 気軽に対話できる議会
 - ②情報 情報公開・情報提供の推進
 - ③機能 議員・議会の機能向上
- ・まちなかカフェ DE 会議
- ・商工会役員、農協役員会議にて話合う。
- ・議員のなり手不足の調査から「議会制度の現状」「議会活性化の取り組みに向けて」「町村議会の課題とその対応」について検証まとめ。
- ・議会制度については国に意見書の提出。

③町村議会特別表彰 「精華町での議会活性化の取り組みと期待される議会の姿」

京都府精華町議会 議長・議会運営委委員長

(活性化内容)

- ・反問権
- ・すべての会議を公開
- ・政治倫理条例の制定
- ・防災既定の制定
- ・通年議会
- ・議会広報の抜本的改革
- ・本会議、委員会のネット中継
- ・住民との合同学習、研修の実施

(所感)

議会広報誌の取り組みについて参考する必要がある。

④「議長、副議長のあり方」

新潟県立大学国際地域学部 准教授 田口 一博 氏

(考察・意見)

- ・議会事務局の業務と人事について今後、少し筒でも関与すべきと考える。
- ・議会費の議長交際費について見直し必要。
- ・議場の見学から議会の見学にする。本会議の傍聴から全協、委員会までの傍聴で一貫した議会見学を検討する必要がある。
- ・議会決議は住民多数意志と異なることを認識する。
- ・議員相互の敬意を更に持つことが必要。
- ・会議運営は誤りのない運営だが出席議員が納得できる会議運営が必要。

- ・過去の会議録の保管は議会図書館にて管理すべきである。
- ・議会代表として、対外的政務活動、村内外の総合調整、諸議長会・議会間交流、村のトップセールスを意識して進める努力が必要。

2) 政務講演会及び宮下 一郎衆議院議員との懇談 6月1日 9:45~12:00
(講演会)

①今こそ地方創生！－戦略策定から実践へ－

内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局
地方創生総括官 唐沢 剛

(特記)

- ・地方創生総合戦略は「ごちゃまぜ」で進めていく。
- ・2017年は総合戦略の中間年、地方創生の新展開をすすめる。
 - ◇地方創生に資する大学改革
 - ◇地域資源を活用した「しごと」づくり
 - ◇空き店舗、遊休農地、古民家等、遊休資産の活用
 - ◇政府関係機関の地方移転
 - ◇中央省庁のサテライトオフィス
 - ◇働き方改革

以上、ご報告いたします。